

2017年9月8日 第3214回例会

於： 横須賀商工会議所

<点鐘・開会> 12:30 小林 会長

<斉 唱> 「手に手つないで」

<ゲスト紹介> *横須賀バイリンガルスクール 代表 井上 芙美 様
*通訳 高橋 栄子 様
*米山奨学生 金 穂 勲 様
*株式会社みずほ銀行横須賀支店 支店長 増田 幸司 様

<ビジター紹介> *横須賀北ロータリークラブ 福嶋 義信 様

<会長報告> *ガバナー事務所より

・国際ロータリー第2780地区社会・国際奉仕セミナー開催のご案内について

10月21日(土) 13:00~15:30

於：アイクロス湘南 6F「E会議室」

・インターアクト年次大会登録のお願いについて

11月 3日(祝) 10:00~15:00

於：光明学園相模原高等学校 相模原市南区当麻856

<委員長報告> *職業奉仕委員会 瀬戸委員長より職場体験学習のお願いについて

<幹事報告> *ガバナー月信 No.3

*2016-17年度決算報告書/2017-18年度予算書 配布

*例会終了後 情報委員会開催

<出席報告> *出席委員会植田委員長より9月8日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数	欠席数	メイクアップ数	出席率
112名	96名	67名	29名	5名	74.23%

<ニコニコ報告>

- ・福嶋 義信 様 (横須賀北RC) いつもお世話になります。
- ・三 役 横須賀バイリンガルスクール代表取締役 井上芙美様、本日の卓話宜しくお願ひします。
- ・松村、福西、新倉 健、鈴木 鳥、植田、薦野、秋本、井 莉、若麻績、澤田、鹿島、鈴木 鞠、長尾、高橋 倫、上林、勝間、藤村、前田、江沢、鈴木 豊、長坂、田邊、瀬戸、物井 各会員
横須賀バイリンガルスクール代表取締役 井上芙美様、ようこそお越し下さいました。卓話を楽しみにしています。
- ・齋藤 眞、前川 両会員 米山奨学生 金 穂 勲様、ようこそいらっしやいました。
- ・三 役 横須賀北RC福嶋義信様、ようこそお越し下さいました。
- ・鈴木 健、新倉 健、濱田、澤田、高橋 倫、山 〃、岩瀬、八巻、北村、吉田 健、渡辺 健、岩瀬 各会員
横須賀北ロータリークラブ福嶋義信様、ようこそお越し下さいました。
- ・齋藤 眞 会員 入会月祝いとして
- ・吉田 健、池上 両会員 先日の1番テーブルミーティングには三役の皆様にもお越し頂き、大変楽しく過ごす事ができました。小沢会員、おいしいお食事とお土産ありがとうございました。
- ・渡邊、渡辺 健、谷、勝間、明野 各会員 9月1日、甲羅本店にて1番テーブルミーティングが開催されました。吉田清マスター、池上サブマスターご苦労様でした。小沢会員美味しいチーズケーキのお土産ありがとうございました。
- ・三 役 本日、Eクラブにmake upします。皆様も是非。
- ・佐久間 会員 若麻績会員の御紹介で長野野光寺を参拝し、身を清めてくる事ができました。
- ・猿丸、藤原 両会員 暑さが和らぎ、秋風が心地よく感じる季節になりました。今年は秋刀魚が

あまり獲れないようです。

- ・加藤 備、岩 瀬、大 竹、高橋 倫 各会員 太陽フレアの影響でナビが狂うかもしれません。皆様早く帰宅しましょう。
- ・勝 見、渡 邊、吉田 備、渡辺 倫、岡 田、小林 備、植 田、明 野、勝 間 各会員 谷会員より写真をいただいて。

<卓 話> 「バイリンガル小学生の生み出す未来への思い」

横須賀バイリンガルスクール
代表 井上 芙 美 様

みなさんこんにちは、横須賀バイリンガルブリッジの代表取締役の井上芙美です。

私が横須賀に来て、「大変、変わったこと、とても、教わったことがあります。それを横須賀に活かしていきたい」という思いがあります。その中でも課題が多く、自分ひとりでは解決できない様々な事を、多くの方の力を借りて、その思いを実現する力にしていきたいと思っています。

横須賀バイリンガルスクールは「保育園」の 카테고리になります。

日米の子供たちが日本語と英語を話して、「共に笑い、共に喜び、共に成長する場所を作りたい」という思いでスタートしました。

現在、日米そして他の6つの国籍の400名の子供たちがバイリンガルスクールに通っております。

今から3年半位前にミスタードーナツのビルの4階の一室で保育園を3名の園児から開園しました。

この3名の園児の会話を聞いて、「すごい可能性があるのではないかと気づかされました。それは、2人の日米の園児がレゴを取り合う会話です。日本人の男の子が「That's Mine」とアメリカ人の女の子に言い、女の子は「No絶対あげない」と言いました。この会話は「すごいな!」と思いました。横須賀では日本語と英語で日米の子供達が「レゴを取り合う」ことをしている環境は凄いなと思いました。

この園児達は進路のためではなく、友達になるためだけに英語と日本語を使っている。この環境が「小さい時からできる横須賀ってなんてすごいだろう」と私は思いました。

そこから、3名の保育園をスタートして、1年後に2店舗目オープン、2016年4月に横須賀のザ・タワーの3階に移転し、園児450名まで増やしました。今、アメリカ人と日本人が混ざり合って大好きなクラスメイトと友達になるためだけに「日本語と英語を学ぶ」、私たちは日本人に英語を教え、アメリカ人に日本語を本気で教えております。また、遠足でもアメリカ人の方がなかなか行けないところに行ったり、アメリカ人の子供達に習字を教えたりしています。

日米の子供達が国籍、言葉など、全然関係ない状態で共に学んで、共に成長する場所を作っております。

生徒の数も「1年目は70名、2年目は150名、4年目に400名」と増え、気づいたらこんなにたくさんの方たちが通ってくれるようになっていました。

最初、3名で始めた時は、前を向いて常に「これで本当にいいのだろうか」と既存の概念を問い直して、「絶対こういう保育園があったらいい」と真剣に作って参りました。

初めからずっとそうなのですが「選んでくれた方たちに最高の体験をさせてあげたい」という思いだけで取組んでいます。それをやって気づいてみたら毎年100名ずつ増えているという感じです。

この横須賀バイリンガルスクールを始めて、エリカと知り合いました。今はフロリダの学校の校長先生になるほどの優秀な方です。彼女が言ったのは「日本にいてもつまらない」、「アメリカにいればもっと楽しい



ことができるのに横須賀にいと何もできない」、横須賀は「フィッシュカントリー」と呼んでいました。「フィッシュカントリー」とは横須賀の通称で「魚臭い国」という意味です。エリカは、こんな魚臭い国に閉じ込められて、行きたいところにもいけないと思っていました。

横須賀には約25,000名のアメリカ人が在住し、任期が3年～5年の周期で人が入れ替わってきます。毎年600名の方達が入れ替わっています。そうすると、毎年「日本はフィッシュカントリー」と思う人達が600名増えてしまう、ということが非常に残念です。

第二の故郷と思って頂けるためにどうしたらいいかと考えていました。

そうしたところ、彼女が引越する2ヶ月前に上町の灯籠フェスティバルに行った際に「日本に来て良かった」と彼女がひとこと言ってくれました。フィッシュカントリーと言われたいにするには「友達が出来るとか、大好きな先生ができるとか、地域のまつりに参加するとか」等、そんなありふれた当たり前のことが、「本気のコミュニケーションに繋げていく」と知りました。

そうしていくと、保育園なので卒園生も出てきて、日本語も大好きになり、日本の小学校に入学したいという子供も増えてきますが、横須賀の小学校は両親のどちらかが日本語を話せない外国人の子供は入学できないルールがあります。すごく頑張って日本語を話すことができた子供が入学できないため、そのお母さんは泣いて悔やんでいました。

そのような出来事がきっかけで横須賀市以外の私立も含め入学可能な学校を調べましたが、ふと疑問が起きました。日本の小学校は「班行動やグループ行動等」をとっており、違いを認めることや励ましあうことがありません。何にも環境が整っていない中でアメリカ人が急に小学校に通うのは「双方にとっていいことなのか?」と考えました。それであれば「自分たちで小学校を作ってしまう」と思いました。

小学校を作るためには認可を取得しなければなりません。しかし、「それを崩したら、もしかしたらできるのではないか」と思い、1年弱くらい前からどこにもない小学校を作ろうと考えました。一番の問題でありました場所の確保も、神奈川歯科大学が真剣に耳を傾けて下さり実現に向けて一歩踏み出し、どこにもない横須賀ならではの小学校の開設も動きだしました。

その結果、2017年9月1日に21名の生徒が集まって、横須賀バイリンガルエレメンタリースクールが開校致しました。そして現在、三浦半島初の国際バカロレアの取得を目指しております。国際バカロレアは2018年までに日本に200校にするとされている「グローバル教育の最高峰」です。日本の小学校の認可は取得できませんが世界の認可が取れる小学校が作れることに気づきました。

国際バカロレアは、全世界共通の学位でどの国で卒業しても大学卒業の免許がもらえます。同じく小学校でも卒業免許がもらえるものです。グローバル教育として取り上げられている「どうやったら物事を考えるとか、発信するとか」等が教育の軸になっており、世界で戦う人を作るのがテーマになっております。

ただ、国際バカロレアを取ったからといって、義務教育のある日本の子供達が入学するには課題が残っています。また、小学校を卒業した後の「中学・高校」も作っていかなければ、世界で通用する子供達できません。この小学校がもたらす未来は、「世界最高峰のグローバル教育が受けられ、日米の交流の場を創出し、国際的な街で外国人と共に学ぶ場所があることで横須賀市に定住する人が増える」と思っています。そして横須賀市が大好きだという人達が毎年600人増えると世界が変わってくると私は思っております。

そのために様々なアプローチをしており、昨年10月から週末のスクールを開校しました。7割が都内・横浜・茨城からの参加者で、現在生徒数が200名近くとなっており、1回20名位の参加となっております。また、武蔵村山市や日大藤沢小学校や教育委員会と連携がとれ、価値を理解いただき賛同いただいています。残念ながら肝心の横須賀市の学校との交流がありません。横須賀市の参加者が3割以下と非常に少ない状況です。地元の方々にはなかなか気づいてもらえないというジレンマがあり、それは私たちの反省と課題となっております。

しかしながら、毎回茨城から来てくれる高校生から「本当に私の人生輝いている感じ、1時間以上かけても行く価値あり、本当にアメリカンスクールに通って良かった」等のコメントを残してくれます。

これをやって、「物事に挑戦すること、自分の可能性を信じること、言葉を越えたコミュニケーションが世界を変えること」等、「違っていいんだ、違っていいのが当たり前だ」ということを、私自身もこういう挑戦をさせて頂いて知りました。

グローバルの世界から気づくことが非常に多いと思います。小学校をつくることが夢だったのが、使命からミッションに変わっていきました。

私たちの小学校の教育は混ぜることから始め、「日米・言葉・地域・会社・今と過去を混ぜる」ことで今を崩していくことが私たちの作っていききたい世界で思い描く未来の横須賀の姿です。横須賀に来てから3年間、たくさんのことを学び・仲間ができ、尊敬する人に出会って、可能性を信じる力をくれた街が横須賀でした。できないと思ったことができることになったり、お互いのことを思いやって一つひとつ向き合えば必ず道が開くことを知り、前に進む勇気をくれる場所が横須賀だと心から思っております。

私も人生を動かす瞬間に寄り添い、背中を押す人でありたいとすごく思っております。

多様性を楽しむ文化を横須賀から、意思をもって人生を切り開くスピリットを持った子供達をこの横須賀から育みたい、そんな小学校を作りたいと思います。私にはできないことはたくさんあって、そういう中でも思いを形に、思いを力にしていきたいと思っています。

ご静聴ありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 小林 会長

週報担当 加藤 淳